



日本地球化学会ニュース

No. 224 March 2016

Contents

年会のお知らせ.....	2
「2016年度日本地球化学会第63回年会のお知らせ（1）」	
学会からのお知らせ.....	2
新会長あいさつ	
研究集会のお知らせ.....	3
日本地球惑星科学連合2016年大会のご案内	
Goldschmidt 国際会議2016のお知らせ	
書評.....	4
「オーストラリアの荒野によみがえる原始生命」	

年会のお知らせ

2016年度日本地球化学会 第63回年会のお知らせ(1)

主催：日本地球化学会

会期：平成28年9月14日(水)～16日(金)

会場：大阪市立大学・杉本キャンパス(全学共通教育棟，懇親会は第1学生ホール)

交通：JR阪和線「杉本町(大阪市立大学前)駅」下車，東口すぐ

地下鉄御堂筋線「あびこ駅」下車，4号出口より南西へ徒歩約15分

アクセス方法の詳細ならびにキャンパス内の地図については，下記のサイトを参照下さい。

<https://www.osaka-cu.ac.jp/ja/about/university/access#sugimoto>

内容：口頭発表およびポスター発表，学会賞記念講演，総会，懇親会等。セッション編成の詳細については次号のニュースにてお知らせいたします。

講演申込締切：講演申込および要旨提出(例年同様，同時に行って下さい)は，6月13日(月)開始，7月14日(木)締切を予定しています。

事前参加登録：8月25日(木)まで，割引料金の適用を予定しています。

各種申込は年会ホームページから行います。その詳細については次号のニュースあるいは学会のホームページをご覧ください。

関連イベント：ショートコース(9月13日(火)，詳細は次号のニュースにてお知らせします。)

小集会：学会期間中の昼食時間，あるいは講演終了後に小集会を開催することができます。希望されるグループは年会事務局にお問い合わせ下さい。

年会事務局：

〒464-8601 名古屋市千種区不老町D2-2(510)
名古屋大学大学院環境学研究科地球化学講座内
2016年度日本地球化学会事務局

委員長 山本鋼志

E-mail: 2016LOC@geochem.jp

学会からのお知らせ

●新会長あいさつ

日本地球化学会会長 塚本尚義

2016年1月より川幡穂高前会長から役職を引き継ぎました。本会の目的である「わが国における地球化学の進歩発展を図る」ことに微力ながら努力していきます。皆様のご支援とご協力をお願いできれば幸いです。

今後のわが国の地球化学の進歩と発展のためには，国際的な協力と国際的なリーダーシップが必要不可欠な要素です。これまでの会長と諸先輩会員の努力のもと，Geochemical Society, European Association of Geochemistry, 中国鉱物岩石地球化学会および韓国地質学会との間で研究交流のMOU(覚書)を結んでいます。これらのMOUに基づき国際的な学術交流をさらに深めていきたいと思っております。その先駆けとして，横浜で開催されるGoldschmidt Conference 2016は会員の皆様と一緒に運営を行い成功に導かねばなりません。ご協力をよろしく申し上げます。幸いGoldschmidt2016では多数の会員がテーマチェアとセッションコンピーナーに立候補してくださり，本学会が学術と実務の両面から会議を主導できています。Goldschmidt2016後も，この経験をGoldschmidt 2017以降に引き継ぎ，さらに発展させていくことが肝要です。また，2020年の前半には，Goldschmidt Conferenceを日本あるいはアジアに誘致する牽引力を持たねばなりません。そのためには学会の法人化を視野に入れる必要があります。

本学会が発行する国際学術誌Geochemical Journal(GJ)は，科学研究費の援助を受け，少しずつですが国際的な評価が向上しています。会員の皆様はオープンアクセス特別補助等の特典がありますので是非ご利用ください(http://www.geochem.jp/information/info/2014/140401_1.html)。Geochemical Journalの掲載論文は地球化学全般であり，ホームページには，募集論文として，宇宙・鉱物・岩石・火山・水熱・同位体・年代・大気・陸水・海洋・有機・環境の地球化学分野がこの順番に掲載されています。一方，投稿論文数の分布は概ねこの順番の逆です。ちなみにGoldschmidt Conferenceのセッション提案数の分布もGJ投稿論文数分布と同様です。この分布の一致は，世界の地球化学分野における現在の研究者数分布を反映していると考えられます。研究者分布は学問の面白さと相関がありますが，研究費の流れにも大きく左右され

ます。

何故こんなゴシップ的な話題を取り上げるかという
と、今期に目処をつけたい課題として、学術会議が進める「学術の大型研究計画 (<http://www.scj.go.jp/ja/member/iinkai/ogata/>)」に本学会として如何に取り組むべきかということがあります。大型研究計画とは総額百億円以上の経費が必要な研究です。私個人的には総額数十億円以下の研究テーマしか思い浮かばないので大型研究計画とは無縁なのですが、本学会は大型研究計画が必要かもしれません。したがって、会長として本気でこの課題に取り組ませていただきます。そこで、世界的に多額の研究費が流入している上記の研究者数が多い分野のご意見を積極的に取り入れさせていただきたいと考えています。また、逆に、大型研究計画は学会にとって負の要因であるかもしねないので、そういうご意見があれば耳を傾け、バランスをとります。

日本地球化学会は、地球惑星科学の実証研究を支える学会として世界の地球化学を牽引していく責務があり、その責務を全うすることがわが国における地球化学の進歩発展を支えます。そのため、5つあったタスクフォースを今期は法人化と大型研究計画についての2つに集約し、学会のさらなる発展に取り組んでいきます。会員皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

研究集会のお知らせ

●日本地球惑星科学連合2016年大会のご案内

会期：2016年5月22日(日)～5月26日(木)

会場：幕張メッセ 国際会議場、国際展示場（千葉県千葉市美浜区中瀬2-1）

APAホテル東京ベイ幕張（千葉県美浜区ひび野2-3）

詳細は以下のホームページをご参照下さい。

http://www.jpogu.org/meeting_2016/

開催セッションの詳細は大会トップページの「セッションリスト」http://www.jpogu.org/meeting_2016/session_list/をご覧ください。

大会関連のスケジュールは以下の通りです。

要旨受付期間

2016年1月7日(木)～2月18日(木) 17:00

早期参加登録受付期間

2016年1月7日(木)～5月10日(火) 17:00

通常参加登録受付期間

2016年5月10日(火) 17:00～5月26日(木)

学会では例年通り展示ブースを設けて、入会案内、関連行事案内、学会誌「Geochemical Journal」冊子体およびバックナンバー CD-ROMの無料配布、学会誌「地球化学」の特集号を含む最近のバックナンバーの販売、会員書籍販売、学会ノベルティグッズの無料配布などを行う予定ですので、ぜひお立ち寄り下さい。

(広報委員会 JpGU 担当 角野浩史、

広報幹事 三村耕一)

● Goldschmidt 国際会議 2016 のお知らせ

今年の Goldschmidt 国際会議は6月26日(日)から7月1日(金)に横浜市のパシフィコ横浜にて行われます。Goldschmidt 国際会議は、地球化学に関連する多くの分野を網羅し、会場では各国から3000人以上の参加者が集まり、活発な議論がなされています。日本地球化学会の会員は、会員登録費が非会員より安く設定されています。まずは Goldschmidt 会議のホームページを覗いていただいて、会議の概要をご覧ください。そして、日本で開かれる会議への参加をぜひご検討ください。

Goldschmidt 国際会議ホームページ

<http://goldschmidt.info/2016/>

〈今後の日程〉

要旨登録締め切り： 2月26日(金)

学生ボランティア受付締め切り：2月26日(金)

早期参加登録締め切り： 4月26日(火)

この日まで早期割引会費

事前参加登録締め切り： 5月26日(木)

Goldschmidt 国際会議： 6月26日(日)～7月1日(金)

問合せ先：広報委員会 pr@geochem.jp

(Goldschmidt Conference 幹事 益田晴恵、

広報委員 Goldschmidt 会議担当 日高洋、

広報幹事 三村耕一)



書評

「オーストラリアの荒野によみがえる原始生命」
(杉谷健一郎著, 共立出版, B6判, 2016年1月25日発行, 228ページ, ¥1,800+税, ISBN 978-4-320-00905-9)



本書は、著者の杉谷氏が大型微化石を西オーストラリアの30~34億年前の地層から発見し、その化石を世の中に認知させるまでの過程をつづったドキュメンタリーである。また、地球生命の起源、初期進化、地球環境と生物進化について、テンポの良い文体で丁寧に書かれた学術書でもある。

ところで、“大型微化石”とは、とても奇妙な単語である。1つの化石を説明するのに“大型”と“微”という、相反する意味の文字が含まれているからである。もっとも、よく考えてみると、“微化石という部類の化石にしては、かなり大きい化石”という意味となり、これで良いわけなのである。微化石という小さな生物の化石に馴染みのない私は、「化石発見!!」と聞くと、恐竜やアンモナイトなどの大きくりっぱな化石を思い浮かべてしまう。杉谷氏が太古代の岩石中に発見した化石は、とても小さく、“化石らしきもの”であった。彼は発見当初から、直感的にそれを“化石”であると理解したが、多くの人に“化石”と認めさせるまでには、想像を絶するほどの時間と労力が費やされたのだった。

1章から9章までは、太古代の環境変化が、化学的に、さらに化石記録を踏まえてわかりやすく解説されている。ここまでの章は、一般の方々にとっては容易に読める教養書であり、大学学部生にとっては太古代

の地球史の基礎知識を身につけるために適した教科書といえるだろう。本文には重要な発見や論争になった話題についての引用とその文献が示されており、より深く研究内容を知りたい方にも親切である。さらに、章の終わりにはBoxとして地球科学的に重要なトピックが丁寧に説明されている。

10章以降は、まさか化石が入っているとは思ってもしなかった岩石から、杉谷氏が化石を発見し、それを世の中に認知させるまでの過程を見ることができる。コネのない、弱小の日本人研究者が様々な苦難を経験し、時には落ち込み、乗り越えて、1つの研究を成し遂げていく。ついには、その分野の研究者たちの心をつかみ、信頼を勝ち取ることとなる。

杉谷氏は古生物分野で著名な指導者の弟子でもなかったし、化石に関する世界的権威の研究室に出入りしているわけでもなかった。フラリと日本からオーストラリアに行って採集した岩石から、あまりにもインパクトの大きな“物体”を見つけてしまった。それに対する懐疑、戸惑い、焦り、羨望などの複雑な感情が、専門家達の中に渦巻いたことは想像に難くない。このときの杉谷氏の行動は非常に合理的なものであった。信頼のおける現地の研究者を探して共同研究を進め、目の前の膨大な事実を丁寧に積み上げる作業を続けたのである。このようなやり方は、システムティックに研究活動をしている研究者にとっては、あまりに非効率ゆえ、理解も賛同もされないに違いない。しかしながら、現在、杉谷氏は世界で最も古い微化石を発見した研究者の1人として認知されるに至っている。杉谷氏の驚異的な忍耐と情熱には頭の下がる思いである。

本書の読者は、新しいパラダイムを創造することの困難さと魅力を実感することができるだろう。本書は、若い研究者、ならびに、これから研究者を目指す若い方々に読んでいただきたい本の1つである。そして、大いに刺激を受け、ぜひとも新しいパラダイムの創造に挑戦していただきたい。

(名古屋大学環境学研究科 三村耕一)

ニュースへ記事やご意見をお寄せください

地球化学に関連した研究集会，書評，研究機関の紹介などの原稿をお待ちしております。編集の都合上，電子メールでの原稿を歓迎いたしますので，ご協力の程よろしくお願いいたします。次号の発行は2016年6月頃を予定しています。ニュース原稿は5月中旬までにお送りいただくよう，お願いいたします。また，ホームページに関するご意見もお寄せください。

編集担当者（日本地球化学会広報幹事・ニュース担当）

三村耕一

〒464-8601 名古屋市千種区不老町

名古屋大学大学院環境学研究科地球環境科学専攻

Tel: 052-789-3030; Fax: 052-789-2530

E-mail: news-hp@geochem.jp

平野直人

〒980-8576 仙台市青葉区川内41

東北大学東北アジア研究センター

Tel: 022-795-3618; Fax: 022-795-3618

E-mail: news-hp@geochem.jp